

作業方法を変更する「目的」は何ですか？！

またしても「形式優先の施策」実施か？！

2月21日に「作業指示24-16号」が貼り出されました。その内容は「箱作業担当者が機能検査の最後に行っている遠隔操作テストを全てのユニットが終了するのを待ってからB担とC担で工具ロッカーの工具数をチェックして、コンプレッサー側カウル相互チェック終了の連絡も併せて運転台に報告する」というものです。現状でも各々担当者の作業終了のタイミングで工具ロッカーの確認は行っており問題はないと考えますが、会社は「工具ロッカーの確認終了も一斉にさせており、より安全です」とでも言うのでしょうか？！それとも「B担当は早く記録室に引き上げず、もう少し現場に残っていなさい」ということなのでしょうか？！

これまでも現場では、「屋根上作業などで機能検査開始が大幅に遅れそうな時に班長の判断で台車の相互チェックを先に行う」など、「B担当のアリス入力の間時間帯」も含め厳密に作業ダイヤを貫くのではなく柔軟な対応もしています。「B13A圧力調整弁エア漏れで交換作業」などでもA担当は単に工程管理や作業指導だけでなく実作業にも絡んでいます。

現場社員の知恵と協力で作業を回している中で、今回貼り出された「作業指示」はまたしても「形式優先」の感じがします。

それとも今後導入されるN700A編成(G編成)の作業を考えてのことなのでしょうか。先のことも大事かもしれませんが現にやっている作業のことをもっと考えて下さい。例えば「データ取りということ始めて5年以上もダラダラやっているZ編成の連換調整」はいつまでやるのでしょうか。

しかもホコリにまみれて「データ取り作業の連換調整」をしている現場社員にはそのデータは一切明らかにされていません。

社員の皆さんはどう考えますか？！